

1 地域行事等への参加・協力

平成27年度は、利根沼田地域のイベントなどに利根沼田森林管理署及び赤谷プロジェクト地域協議会等と連携しながら積極的に参加しました。

① みなかみ町内でのイベント

「猿ヶ京赤谷湖上花火大会」(群馬県みなかみ町猿ヶ京温泉)

平成27年8月22日(土)群馬県みなかみ町まんてん星の湯前の広場において、猿ヶ京温泉まつり実行委員会主催の猿ヶ京温泉赤谷湖上花火大会のイベントに、昨年に引き続き、地域協議会からの協力要請を受けて、参加しました。



猿ヶ京温泉のマスコット「湯ー湯ー」



ヒノキ球果ストラップづくり

地域協議会と合同で行った当日の体験メニューは、

- ・ヒノキの球果を使用したストラップ作り
- ・森のかけらストラップ作り
- ・ロケットリーフ(新規)

の3種類で、体験者数は約80名、推定ブース来訪者数は約120名となりました。

みなかみココイラ2015に参画！「小鳥のさえずりと野仏めぐり～世界で一つのオリジナル・バードコールを作って小鳥と話そう！」

人と自然とのつながりをわかりやすく伝え、赤谷プロジェクトの目標である持続的な地域づくりを推進するため、平成25年度から、みなかみココイラ(旧オンパク)にパートナーとして参画しています。

※ みなかみ"cocoiira"(ココイラ)とは、地元の人が地元の人を案内して、みんながこの町を大好きになるための小さなプログラムの集まりで、温泉地として地域の活気とつながりを再生するまちづくりイベントです。

今年度は、10月2日(金)みなかみ町のたくみの里「森の恵みと学びの家」において、みなかみ町オンパク2015のプログラムNo.3ココイラ「小鳥のさえずりと野仏めぐり～世界で一つのオリジナル・バードコールを作って小鳥と話そう！」を実施しました(参加者:5名)。

今回の企画内容は、地球誕生から「いきもの」や水や空気とわたしたちのつながりをテーマにした紙芝居、赤谷の森の木を使ったバードコールづくり、たくみの里の飲むヨーグルトと麦の香りさんのおいしいスコーンでおやつタイムと野仏めぐり(お散歩)です。

バードコールづくりでは、参加者のみなさんに、色や形、節の表情などが一つずつ違う木から好きなものを選んでいただき、ウッドビーズを飾った麻ひもで首から提げられるように作りました。ウッドビーズは、一人一人、結び方に個性が出て、世界で一つだけの素敵なオリジナル・バードコールができあがりました。

おやつタイムで一息ついた後は、いよいよ、バードコールを持って、赤谷の森からの豊かな水が流れ、実りの秋を迎えたたくみの里を回る野仏めぐりに出発です。



赤谷センター所長の紙芝居



バードコールづくり

天気が心配されましたが、お散歩日和の快晴となり、ゆったりと流れる時間の中、ガイドをしていただいたたくみの里「森の恵みと学びの家」の市毛さんから、須川宿や野仏の由来などの人のくらしの歴史に触れながら、のんびりと散策しました。途中、参加者からのガイドも知らなかった解説があるなど、和やかなムードで楽しみました。



たくみの里の紹介



野仏めぐり

お土産に、サクラ・クリ・ブナ・ミズキの4つの樹種から2枚の板を選んで作る、オリジナル・カスタネットをお持ち帰りいただきました。

参加者からは、「秋空の下をゆっくり歩き今まで行かない場所まで行くことができてうれしかったです」、「野仏めぐりがよかった。森のお話しが勉強になりました。」、「わかりやすいお話しで、知っているようで知らないことを教えてもらいました」、「森や環境のお話しが聞け、ほしかったバードコールも作れてとても楽しかった。たくみの里さんもおやつ アイディアも抜群でした」など企画者としてこれ以上ないうれしい感想をいただくことができました。

「環境と森と木のまつり」

11月3日（火、祝）、みなかみ町の月夜野矢瀬親水公園で開催された群馬県主催「環境と森と木のまつり」に参加しました。

昨年度までは、21世紀の森フェスティバルと合同で開催されていましたが、今年度は「環境と森と木のまつり」が単独で開催されました。例年、利根沼田森林管理署がブースを出してしおりづくりを行っており、赤谷センターも森のかけらストラップづくりと樹木名の漢字クイズで協力しました。大人子ども合わせて64人の方に参加いただきました。



「みなかみユネスコエコパークイベント～みなかみの自然と暮らしを考えてみよう～」

平成28年3月19日（土）、みなかみ町カルチャーセンターにおいて、「みなかみユネスコエコパーク」の取組やみなかみの自然について町民のみなさんに周知を図り、町全体の「みなかみユネスコエコパーク」に対する気運を高めることを目的としてイベントが開催されました。さらにこのたび完成したみなかみ町の自然の特徴を1冊にまとめた「みなかみの自然と暮らし」のお披露目や、この1冊を通じて改めてみなかみ町の宝である貴重な自然や持続可能な地域づくりを考えるきっかけとできるよう、みなかみ町から協力の依頼があり、赤谷プロジェクトも展示と森の恵みのおもちゃづくりで参加しました。

メイン会場では冊子「みなかみの自然と暮らし」をまとめるにあたりご尽力いただいた、群馬県立女子大名誉教授 斉藤晋先生の講演やみなかみ町内の小学生による研究発表がおこなわれました。イベントの中で発表をした生徒たちを始め、たくさんの方々が木の肌触りを感じながら森の恵みを体験されました。

最後に今日発表した小学生とイベントに参加した子供たち全員で空飛ぶ種の模型「ロケットリーフ」飛ばし大会が行われました。



森のかけらストラップづくり



カスターネットの絵付け



小学生の発表

ロケットリーフ大会

① 沼田市内でのイベント

ぬまたサラダパーク「春の森まつり」(群馬県沼田市)

平成27年5月10日(日)、サラダパークぬまたより、「サラダパーク春の森まつり」の開催にあたり協力依頼があり、森のかけらストラップ及びヒノキの球果のストラップの体験とともに赤谷プロジェクトのPRを行いました。

当日は晴天ながら、時折突風が吹き荒れる強風の中での実施となりましたが、徐々にお客様が訪れ、お昼過ぎまで盛況となりました。ストラップづくりは、大人57名、こども76名の計133名に体験していただきました。



「第20回ごったくまつり・ボランティアフェスタぬまた」(群馬県沼田市)

平成27年12月6日(日) 沼田市保健福祉センターにて、沼田市ボランティア連絡協議会・ごったくまつり実行委員会が主催する「第20回ごったくまつり・ボランティアフェスタぬまた」に参加し、ネイチャークラフト体験と「For-e-Smileつながるハート」を行いました。

このイベントは、地域で活動する団体や個人の活動発表・交流の場で、出店・展示・パフォーマンス・フリーマーケットなど、利根沼田の生活を楽しくするためならなんでもあり！のおまつりです。今年は20周年ということもあり「20年 未来につなぐ仲間のたすき」をテーマに大人もこどもも楽しめる盛りだくさんの内容で開催されました。

当日は、ステージ発表や活動展示、体験コーナー、食品販売などが行われ、多くの来場者でにぎわいました。また、14時30分からは、群馬レクリエーション協会理事長の高橋良枝氏を招き、「レクリエーションを楽しむ」をテーマに講演会が行われました。

赤谷センターのネイチャークラフト体験(ヒノキ球果のストラップづくり)には56名(大

人24人、子供32人)に参加いただきました。また、「For-e-Smileつながるハート」は15名にハートをつなげていただきました。

また、今回は森のようちえんや赤谷の森まつり、新治こども教室で大人気だったドングリ転がしと森の積み木のコーナーを沼田市青少年育成連絡協議会ジュニアリーダー部(NLC)の高校生のみなさんに運営していただき、未就学児から小学生まで幅広く自然の素材を使って楽しんでいるこどもたちの姿がみられました。



※このイベントは、ボランティア活動に対する市民への理解を深めるとともに、活動状況の発表の場を通して来場者と参加者の交流を深めるために行われています。

② 前橋市内でのイベント

「第4回あかぎ南ろく桜フェスタ2015」(群馬県前橋市)



平成27年4月11日(土)、独立行政法人国立青少年教育振興機構国立赤城青少年交流家の主催する「第4回あかぎ南ろく桜フェスタ2015」に参加し、ネイチャークラフト体験を行いました。

このイベントの趣旨は、前橋市及び富士見町周辺の地域の人たちに花見や様々な体験をする場を提供し、本施設(国立赤城青少年交流家)を知っていただくとともに、地域の団体との連携及びネットワークの構築を図ることです。

当日は雨天の中のスタートとなりましたが、ステージ発表や活動展示、体験コーナー、食品販売などが行われ、昼頃からは雨も上がり多くの来場者でにぎわいました。

赤谷森林ふれあい推進センターの運営する赤谷プロジェクトブースでは、赤谷プロジェクトをPRするパネル・横断幕等を活用したレイアウトをつくり、併せてネイチャークラフト体験(ヒノキの球果ストラップとロケットリーフ)を行い、親子など45名の方に参加いただきました。



「2015敷島公園まつり」(群馬県前橋市)

平成27年4月29日(水:祝)、2015敷島公園祭りは、関東森林管理局からは技術普及課と赤谷センターが出展し、関東森林管理局ブースは、「しおり作り、パネル展示」、赤谷森林ふれあい推進センターブースでは、「パネル展示、森のかけらストラップ・ロケットリーフづくり体験を実施しました。「森のかけらストラップ」づくりは大盛況で、188名に参加いただきました。ロケットリーフも83名に体験していただきました。



2 地域の実践への支援

赤谷センターでは、ふれあい業務を通じて地域のNPO等への支援を行っています。

「環境教育アイテムを活用した地域振興」への寄与

～大空高くロケットリーフで支援のWA!～

赤谷センターでは、みなかみ町の廃校(旧猿ヶ京小学校)活用プロジェクトを行っている「(社)猿ヶ京小学校スポーツアカデミー」から相談を受け、平成24年度に大人も子供も気軽に楽しめる環境教育教材として、また、森林文化を伝え、緑化運動の啓蒙を通じて地域振興等にも寄与できる「空飛ぶタネの模型(名称:ロケットリーフ)」を開発し、さらに平成25年度には間伐材マークの認定を受け、間伐材利用のPRとともに各種プログラムの中で活用してきました。



「ロケットリーフ」の様々な活用

○環境教育

森林教室等のプログラムに種子の話を組み込み、プログラムの最後を盛り上げるためにロケットリーフの対空時間を競う大会を行ったり、昼食後の遊びとして活用するなどプログラムの時間調整に使える便利なアイテムです。

○イベント

イベントの時には、ブースにお客様を呼び込むためのキャッチ用のアイテムが重要です。ロケットリーフをブース前で飛ばすと、空高く舞うことから自然と目につき、また、短時間で作成できることなどから、イベント時の集客に最適です。また、みなかみ町では、抽選会の時にロケットリーフに賞品番号を記入し、会場へ向けて飛ばすといった使い方もしています。担当者によると、抽選の賞品よりロケットリーフの問い合わせの方が多いとのこと。



○地域振興への寄与

みなかみ町新治地区の情報発信基地である道の駅「たくみの里」では、短時間で楽しめるプログラムとして、ロケットリーフを活用しています。また、これは県産材を使用していますので、地域振興へも寄与しています。



○間伐・間伐材利用等の推進のPR

ロケットリーフは、平成25年5月1日間伐材マーク事務局より、間伐材マークの認定（認定番号K1303301）を受けたことから、ロケットリーフを通じて、間伐推進の普及啓発及び間伐材の利用促進もPRできます。

○緑の募金

ロケットリーフの売上の一部を森林整備に役立てていただくために「緑の募金」へ寄付することとしています。

○障害者就労支援

ロケットリーフの袋詰め作業を障害者団体へ委託し、障害者の就労支援を行っています。

○自然林復元試験地

赤谷プロジェクトでは、植栽に頼らずに自然林に復元するための試験地を設定しています。

ここでは、赤谷プロジェクトを見学に来ていただいた方にロケットリーフを使って種子が風に乗って飛んでくる様子をイメージしていただいています。



○今後の取組

ロケットリーフは、様々な可能性をもったアイテムです。間伐材マークの認定を受けたことで、環境教育のプログラムに幅を持たせられるとともに、このアイテムをみなかみ町発！全国区へと普及させることで、森林・林業はもとより、地域振興にも寄与できると考えています。

新たなNPO等への技術・支援のあり方として、参考になればと思います。ぜひ！ロケットリーフで様々な支援のWA！を広げましょう。

「民話と紙芝居の家」との協働イベントの開催

特定非営利活動法人「にい
はるこども文化塾（館長 持
谷靖子）」が指定管理者として
運営している「民話と紙芝居
の家（群馬県みなかみ町猿ヶ
京温泉1150番地1）」と連携し、
自然観察と民話等の融合した
「赤谷の森自然散策」を春、秋、冬
の3回実施し、地域の文化的財
産である当施設の支援を行
いました。



自然散策での持谷館長の笛演奏



宮崎さんの紙芝居

※ 特定非営利活動法人「にいはるこども文化塾」とは、未来を担う子供育成の視点を持って、特に当地域に顕著に残された民話等を通じ、文化、芸術、経済、地域活動を行い、明るい地域社会を作り、年齢、男女、職業等の枠をこえて地域社会の人々と共に文化的な環境作りに寄与することを目的に活動している。

3 赤谷プロジェクトの活動規模

赤谷プロジェクトが調査活動や視察・イベントなどを通じて、プロジェクトエリア周辺地域の振興にどの程度貢献しているのかの目安として、おおよその延べ人数を算出しました。

- (1) 環境教育・イベント等約2,140人
- (2) 調査活動等約520人
- (3) 会議・検討会等約440人

平成27年度の赤谷プロジェクトの活動規模は、延べ人工として、約3,100人規模の活動でした。また、赤谷プロジェクトを運営する国側の出先機関として、沼田市に関東森林管理局 赤谷森林ふれあい推進センター（森林整備部所属）を設置し、常勤職員3名、臨時職員1名、計4名の配置を行っています。

※ 規模人工調査は、赤谷センターが、各イベント・視察・環境教育・赤谷の日等からカウントしているデータを基に算出しました。

モニタリングに調査等に関しては、調査請負者への聴き取りや個別の調査日数に平均的な一日当たりの調査人数を掛けて算出しました。

会議等については、出席者数を会議ごとに算出しました。会議は、赤谷プロジェクト関係する会議（東京で開催された会議も含む）をカウントし、集計は、十の位を四捨五入し、百人単位としました。

V 業務研究発表会への取組

赤谷プロジェクトは平成16年度から始まりましたが、研究者や大学生の研究フィールドとして、広く利用されています。

研究対象は多種多様で動植物などの自然科学のほか、地域社会と自然の関わりなどの社会科学系の研究等、様々な視点で調査・研究活動が行われています。赤谷センターも、赤谷プロジェクト関係者と協力し、業務研究発表に参加しています。

1 赤谷センターにおける業務研究発表会への参加

年度	場所	課題等	備考
H18	林野庁	「赤谷プロジェクトにおける環境教育について」 発表者：赤セ：小川純、NJ：茅野恒秀、地協：林 泉	全国森林レクリエーション協会会長賞
H18	関東局	「赤谷プロジェクトにおける猛禽類モニタリング～赤谷の森における協働調査の実施と成果報告～」 発表者：赤セ：山本道裕、NJ：出島誠一、地協：松井睦子	
H22	関東局	「赤谷プロジェクト発足8年目を迎えるに当たって～赤谷の森管理経営計画書の策定～」 発表者：藤代和成	
H24	関東局	「赤谷プロジェクトって！知っていますか？」 発表者：栗田 喜則	
H25	関東局	「赤谷プロジェクトにおける市民参加のモニタリング調査（ホンドテンを指標種とした森林環境調査）」 発表者：赤セ：石坂 忠、赤Pサポーター：鈴木 誠樹	
H26	関東局	「ニホンジカ被害の『未然防止型対策』の検討と実践」 発表者：赤セ 藤木 久司、(株)群馬野生動物事務所 代表取締役 春山 明子	
H27	関東局	「ニホンジカ被害の『未然防止型対策』の検討と実践 第2報」 発表者：赤セ 藤木 久司、群馬県林業試験場 主任研究員 坂庭 浩之	
H27	関東局	「地域とつながる国有林 ～赤谷プロジェクトの取組から考える～」 発表者：赤谷森林ふれあい推進センター 所長 藤澤 将志	(特別発表)

※ H18年度の林野庁発表は、関東局の推薦枠の中で、林野庁で発表しました。

2 平成27年度関東森林管理局森林・林業技術等交流発表会

平成28年2月18日～19日、「平成27年度 関東森林管理局森林・林業技術等交流発表会」が、当局大会議室（群馬県前橋市岩神町4-16-25）にて開催され、国有林・民有林あわせて25課題（特別発表含む）が2日間にわたり発表されました。

赤谷センターからは昨年度に引き続き「ニホンジカ被害の『未然防止型対策』の検討と実践 第2報」（発表者：赤谷森林ふれあい推進センター 自然再生指導官



発表中の様子



発表の様子

藤木 久司、群馬県林業試験場 主任研究員 坂庭 浩之) を発表しました。

全国的に社会的にも経済的にも被害が深刻化しているニホンジカ被害について、被害と対策に必要な費用・労力を最小限に抑えるため、赤谷プロジェクトではニホンジカを『低密度で維持する』未然防止型で取り組むことを昨年度発表しましたが、今年度は捕獲に向けた取組の第一歩として、群馬県林業試験場で取り組んでいる「餌による誘引」捕獲について、赤谷の森のニホンジカにも対

策効果が見込めるかどうかを確認するため、捕獲を前提とした誘因試験に取り組み、その結果を紹介しました。

また、今年度は特別発表として「地域とつながる国有林～赤谷プロジェクトの取組から考える～」と題して、藤澤所長が発表しました。

赤谷プロジェクトが目標として掲げる「生物多様性の復元や保全」と「自分」や「くらし」(＝持続的な地域づくり)とのつながりを、具体的にどのような活動によれば実感することができるのか、一人一人が主役となって取り組む世界を実現するために今必要なことは何か、赤谷プロジェクトの取組を事例に考察しました。また、それらの活動の中で感じた地域とつながる国有林の姿について発表しております。



発表中の様子



発表中の様子

VI 広報活動

1 赤谷センターにおける赤谷プロジェクト広報戦略の推進

赤谷プロジェクトの普段の活動は、基礎情報としての自然環境等のモニタリングや「生物多様性の復元」を目的として行った試験的な取組に対する動植物等の反応の把握などの地道な作業が大半です。

この様に地道で長い年月に渡る取組は、国民の皆様の支援なしでは成り立ちません。赤谷プロジェクトの取組をさらに知っていただくため、今までの広報活動の問題点を洗い出し効果的なPR活動を行うための「赤谷センターにおける赤谷プロジェクト広報戦略企画書」を平成24年度に作成し、広報活動に積極的に取り組んでいます。

○ 赤谷森林ふれあい推進センター赤谷プロジェクト広報戦略の特徴

- ・ 赤谷センター単独でも実施可能なこと
- ・ 月別取組目標を設定していること
- ・ 年間の実施スケジュールを設定していること
- ・ 実施にあたって、関連予算を確保していること
- ・ 毎年、広報戦略を作っていること
- ・ 赤谷センター内に担当スタッフを配置していること
- ・ 通常の業務とリンクしながら、進めて行けること

2 平成27年度 広報戦略7つのポイント

ポイント1：地域の核となる情報発信基地の活用

- ・ 「道の駅：たくみの里」や「利根沼田広域観光センター」常設のパネル等を活用し、四季を通じた情報発信を行う。
- ・ 新幹線上毛高原駅内の「みなかみ町展示場」を使用した広報活動を継続しつつ、来場者が楽しめるような展示を創作する。
- ・ 記者クラブとの関係を密にし、積極的な情報発信を行う。



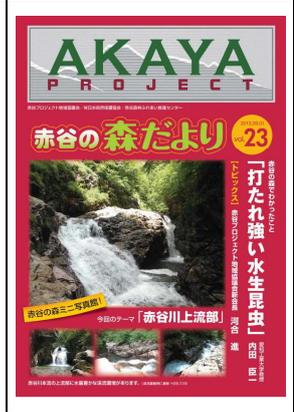
利根沼田広域観光センター



たくみの里

ポイント2：情報誌「赤谷の森だより」の活用（7,000部）

- ・ 赤谷の森だよりの新たな送付先の開拓を行うとともに、現在の送付先を見直し少ない部数でより効果的な広報活動を展開する。
- ・ 現在の4ページ中で効果的な内容となるよう編集を行うとともに、昨年度から連載している「地域と繋がる赤谷プロジェクト」をテーマに、より親しみある紙面づくりを行う

			
<p>第1号～「赤谷プロジェクトかわら版」を発刊</p>	<p>第4号～「赤谷の森だより」と名称変更</p>	<p>第14号～紙面をより親しみやすく刷新</p>	<p>第23号～紙面をよりビジュアル的に刷新</p>
			
<p>第30号～イメージカラーを一新</p>	<p>特集号～『「赤谷の森・基本構想2015」の概要』を発刊</p>		

○情報誌の変遷

- 平成17年 3月 広報誌第1号「赤谷プロジェクトかわら版」発刊
- 平成19年 3月 広報誌第4号より、「赤谷の森だより」に名称変更（年3回発刊）し、みなかみ町内全戸に配布（発行部数11,000部）
- 平成20年 5月 広報誌第8号より、発行部数を12,000部に増刷
- 平成22年 5月 広報誌第14号からは、紙面をより親しみやすい内容に刷新
- 平成25年 9月 広報誌第23号からは、よりビジュアル的な紙面及び経費の削減を目指し、紙面を刷新しました。（発行部数7,000部）
- 平成27年10月 「赤谷の森・基本構想2015概要版」を、広報誌の特集号として発刊

「地域と繋がる赤谷プロジェクト」

vol. 29

地域と繋がる赤谷プロジェクト



**一般社団法人
みなかみ町観光協会**
木村 崇利

自己紹介と普段取り組んでいること(仕事含む)を教えてください。
いつも大変お世話になります。みなかみ町観光協会の木村と申します。上毛高原駅前の観光センター1階で、お客様への観光案内をはじめ、生まれ育った大好きな「みなかみ町」を皆様に向けていただくための宣伝活動を行っています。「訪れてよし、住んでよし」がみなかみ町の魅力です。



お客様への観光案内

赤谷プロジェクト関係者と知りあった経緯をお知らせください。
この仕事に就き、みなかみ18湯の1つである法師温泉長寿館の岡村さんや川古温泉の林さんたちから、温泉

おける自然の大切さを伺い、自分たちの生活が常に環境に影響を与えていることを知りました。また、日本自然保護協会の出島さんのご縁や、善地型イベントcocolra(ココイラ)で林野庁の皆様と出会えたことも大きなきっかけとなりました。冒険が重なり過ぎて取り組まれている姿にとても感動しました。

今後、赤谷プロジェクト関係者と行ってみたい企画等がありましたらお願いします。
赤谷の森の閑伐材で町内に家を作って、その家に住んでいただく家族を募集できれば嬉しいです。幅広くメディアにリリースして素晴らしい赤谷の取り組みを広めてみたいです。

赤谷プロジェクトへ一言！お願いします。(何でもOK!)
自分が小さかった頃に見た天気予報の最高気温や雨の降り方など、今ではだいぶ変わってきたように感じます。普段の生活で環境を意識することの大切さを、赤谷プロジェクトを通じて一人一人が実感できたらとても素敵だと思います。



月夜野大橋から谷川原を望む

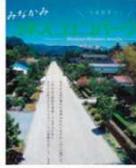
vol. 30

地域と繋がる赤谷プロジェクト



**みなかみ町まちづくり交流課
ユネスコエコパーク推進室
主査**
小野 宏和

自己紹介と普段取り組んでいること(仕事含む)を教えてください。
みなかみ町の自然を守り活かすまちづくりを進める仕事をしています。具体的には、平成29年度のユネスコエコパーク登録を目指し、業務をしています。ユネスコエコパークは世界遺産の登録なども行っているユネスコのプロジェクトの一つで正式名は生物圏保存地域といえます。世界に誇る大自然を有するだけでなく、持続可能な自然との共生に取り組む地域でなければ登録されません。みなかみ町のユネスコエコパークの取組は登録が目的ではなく、町民のみなさん一人ひとりにみなかみの自然のすばらしさを改めて知ってもらい、自然を守り活か



PRポスター

す活動が町全体に広がっていくことをわらいついています。これを契機に、より多くの方にみなかみを訪れてもらえるよう、そして、みなかみがさらに住みよい町になればよいと願っております。

赤谷プロジェクト関係者と知りあった経緯をお知らせください。
仕事を通じて知り合いました。科学的見地から自然を守り、大切に赤谷プロジェクトのみなさんにはいつも頭が下がります。わたくしの仕事と密接に関わっていただき、いつも大変お世話になっています。熱い思いをもった藤澤所長の行動力にはいつもびびりさせられ、一緒に仕事ができて幸せでした。

今後、赤谷プロジェクト関係者と行ってみたい企画等がありましたらお願いします。
みなかみ町に昔から住んでいると自然は当たり前ものと感じてしまいがちですが、実は知らないこととてたくさんあります。地元の人々が改めて地元の自然とふれあ体験できるような、短い時間で気軽に参加できる楽しいツアーなどを企画していただけたらうれしいです。

また、ユネスコエコパークとの連携もこれまで以上に進むことを期待しています。科学的見地を根拠とした赤谷の取組はエコパークの基礎ともいえる取組であり、未来を担う子どもたちへの環境教育や自然体験プログラムの充実などと一緒に進んでいければよいと思います。

赤谷プロジェクトへ一言！お願いします。(何でもOK!)
ヤマビルをなんとか退治してください!

vol. 31

地域と繋がる赤谷プロジェクト



**みなかみ町立新治小学校
教諭(理科)**
石坂 克之

自己紹介と普段取り組んでいること(仕事含む)を教えてください。
新治小学校で3年、4年、5年、6年生の理科を教えています。毎日、子供達と授業で実験をしたり、生き物の観察・飼育やテーマ研究などを行っています。

赤谷プロジェクト関係者と知りあった経緯をお知らせください。
子供達の、キャンプや遠足といった自然体験学習や、総合的な学習の時間などで、いつも赤谷プロジェクトの方々にお世話になっています。

今後、赤谷プロジェクト関係者と行ってみたい企画等がありましたらお願いします。
赤谷の森は熱帯雨林を起源とするクマカカと、寒冷な北方系のイヌワシの両方が生息する世界的に見ても奇跡といえるほど生物多様性が豊かな「ホットスポット」です。このような赤谷の森



発表風景

が、人々の生活とともにあることを「誇り」に思い「森の守り人」になっしてほしいと心から願っています。林野庁の藤澤さん、日本自然保護協会の出島さん、地域協議会の林さんなど、多くの方々のご協力をいただいで、全校での「イヌワシ集会」、「赤谷の森まつり」への参加、子供達による「赤谷のイヌワシの理科研究」発表、赤谷の森「いきものカルタ」を使った公開授業、有志児童と「イヌワシ観察会」を行ったりしています。イヌワシの体も、人間の体も、私たちの飲み水も、すべてが食物連鎖を経て「森の命のかけら」でできていることを教えたいです。学校に「赤谷の森のすざいところ」コーナーを作って、みんなで楽しんで環境学習ができるようにしたいです。



研究発表の様子

赤谷プロジェクトへ一言！お願いします。(何でもOK!)
今後とも、ご指導よろしく申し上げます。

赤谷の森だよりvol. 29

- ・赤谷の森ミニ写真館
「いのちの輝き（モリアオガエルの産卵）」
- ・赤谷の森でわかったこと「アンケートからわかる住民の自然利用と「赤谷の森」への期待
【地域づくりWG委員・信州大学人文学部准教授：茅野 恒秀】
- ・地域と繋がる 赤谷プロジェクト
【(一社)みなかみ町観光協会：木村 崇利】
- ・たくみの里にオープン！「森の恵みと学びの家」
【(一財)みなかみ農村公園公社：市毛 亮】
- ・赤谷プロジェクトに関するイベント予定
- ・お知らせ（地域協議会の役員改選、関東森林管理局の人事異動）
- ・赤谷プロジェクト活動トピックス（4月～7月）
- ・赤谷プロジェクト、って？
- ・赤谷プロジェクトサポーター募集！



赤谷の森だよりvol. 30

- ・赤谷の森ミニ写真館
「赤谷の森の秋（紅葉を纏う滝）」
- ・赤谷の森でわかったこと「カスタネットからはじまる森をいかした地域づくり」 【(公財)日本自然保護協会・赤谷プロジェクト地域づくりWG事務局：出島 誠一】
- ・地域と繋がる 赤谷プロジェクト 【みなかみ町まちづくり交流課エネスコエコパーク推進室主査：小野 宏和】
- ・たくみの里「森の恵みと学びの家から」
【(一財)みなかみ農村公園公社：市毛 亮】
- ・「赤谷の森まつり」を開催します！
- ・赤谷プロジェクトに関するイベント予定
- ・赤谷プロジェクトの活動トピックス（7月～9月）
- ・赤谷プロジェクト、って？
- ・赤谷プロジェクトサポーター募集！



赤谷の森だよりvol. 31

- ・赤谷の森ミニ写真館
「小出俣の『巨樹・巨木』（いのちを伝える営みがある）」
- ・赤谷の森でわかったこと「小出俣沢に『巨樹・巨木観察コース』を作りました！」 【(公財)日本自然保護協会・赤谷プロジェクト環境教育WG座長：横山 隆一】
- ・地域と繋がる 赤谷プロジェクト
【みなかみ町立新治小学校教諭（理科）：石坂 克之】
- ・たくみの里「森の恵みと学びの家から」
【(一財)みなかみ農村公園公社：市毛 亮】
- ・お知らせ（赤谷プロジェクトに関するイベント予定、人事異動）
- ・赤谷プロジェクトの活動トピックス（H27.10月～H27.12月）
- ・赤谷プロジェクト、って？
- ・赤谷プロジェクトサポーター募集！



ポイント3：ホームページ・メルマガを積極的に活用

- ・ 赤い谷のブログを昨年度同様に楽しくユーモアのあるブログに作成する。また、情報ソースの鮮度を意識した発信を行う。
- ・ ホームページのイベント情報をより楽しく掲載する。
- ・ 「赤谷の森だよりメルマガ版」(関東森林管理局メールマガジン)の内容を見直しつつ、ブログや赤谷プロジェクト関係者のサイトとリンクを張った情報発信を行う。

ポイント4：業務研究発表へ毎年参加

- ・ 平成27年度もWG会議の協力を得つつ、1課題の発表を目指す。

ポイント5：イベントに積極的に参画

- ・ 地域等が開催するイベントへ赤セ職員を派遣し、パネル・パンフ等を設置するとともにブース運営についてもアイデアを出しながら積極的に参画し、イメージアップを図る。
- ・ みなかみ町観光協会の主催「みなかみココイラ」に積極的にパートナーとして参画する。
- ・ 赤谷の森自然散策等の既存イベントを見直し、さらに高評価を得るよう内容の充実を図る。

ポイント6：ふれあい業務等の技術的な指導及び支援を積極的に実施

- ・ 当センターの持っている環境教育プログラムをNPO等及び管内各署等も含め積極的に支援の拡大を図る。また、新たな環境教育プログラムの開発も行う。
- ・ 研修・セミナー等を積極的に受け入れる。また、受入れのための広報活動を積極的に行う。

ポイント7：赤谷センター作成・監修アイテムを活用した広報活動

- ・ 赤谷の森野生生物カード(50種)やロケットリーフ等を森林環境教育アイテムとして、さらなる活用を図る。(ロケットリーフは、今年度も間伐・間伐材利用コンクールに出品する)

3 関東森林管理局広報誌「関東の森林から」への寄稿

平成27年度は、「赤谷の森」で行われているモニタリング活動や赤谷センターが取り組んでいるふれあい業務なども、よりわかりやすく、より多くの方に興味をもって頂けるように内容を検討しながらを寄稿しました。

番号	発行月	内 容
138号	12月	<p>「平成27年度関東森林管理局森林・林業技術交流発表会予告編」</p> <p>赤谷センターでは、今年度2つの発表を予定しています。</p> <p>①ニホンジカ誘引試験について</p> <p>低密度下における個体数管理手法の確立に向けて、赤谷の森で捕獲を前提とした誘引試験に取り組んでいます。</p> <p>②地域とつながる国有林</p> <p>赤谷センターでは、赤谷プロジェクトの「生物多様性の復元」と「持続的な地域づくり」の目標の達成に向けた取組の一つとして、森と里（人の活動）と人、そして人と人をつなげる取組を実施しています。</p> <p>この取組は、アイデアやできることが増え、また、地域と赤谷プロジェクト（国有林）がつながっていく、みんなが主役でそれぞれが出番を見つけて進められる取組となっています。</p>  <p>関東森林管理局 第128号</p> <p>平成27年度 関東森林管理局 森林・林業技術交流発表会 予告編</p> <p>「赤谷の森から」</p> <p>低密度下における個体数管理手法の確立に向けて、赤谷の森で捕獲を前提とした誘引試験に取り組んでいます。</p> <p>赤谷センターでは、赤谷プロジェクトの「生物多様性の復元」と「持続的な地域づくり」の目標の達成に向けた取組の一つとして、森と里（人の活動）と人、そして人と人をつなげる取組を実施しています。</p> <p>この取組は、アイデアやできることが増え、また、地域と赤谷プロジェクト（国有林）がつながっていく、みんなが主役でそれぞれが出番を見つけて進められる取組となっています。</p>

Ⅶ その他の活動

1 赤谷の日の取組

今年度の赤谷の日活動は、環境教育WGで検討を行った「いきもの村の将来像」に向けていきもの村内の整備を進めると共に、各種調査を進めてきました。

○ 平成27年度 赤谷の日活動実績

年	月	日	参加者数						ホスト	全体活動内容	
			サポーター	地域協議会	赤セ	NACS-J	林野職員	その他			計
2015	4	4	2	2	3	1		0	8	赤セ	いきもの村環境整備(里山環境整備・南ヶ谷湿地の状況確認・水生生物の生息環境保全・歩道整備)
2015	5	9	7	3	3	3		1	17	地協会	いきもの村環境整備・南ヶ谷湿地検討会
2015	6	6	11	0	2	1		1	15	N-J	1. 里山環境整備(木陰でお昼寝ができる場所づくり(落ち葉かきなど)。2. 歩道整備(奥道から下側の歩道及び奥道沿いのいきもの村入口周辺の草刈り。3. 南ヶ谷湿地の保全活動(湿地内のヨシの刈り取り、湿地内の泥土の除去、水位計の設置)。4. ホンドテンモニタリング)
2015	7	4	10	2	3	2		0	17	赤セ	1. 歩道整備 2. 里山整備 3. 池の調査 4. ホンドテン・モニタリング調査・南ヶ谷湿地調査
2015	8	1	11	2	3	1		9	26	地協会	1. 歩道整備 2. 里山整備 3. 初回案内 ホンドテン・モニタリング調査および南ヶ谷湿地調査
2015	9	5	7	1	2	1		0	11	N-J	いきもの村環境整備(いきもの村駐車場エリアの砂利の敷設・歩道整備・水生生物の生息環境保全) 南ヶ谷湿地調査(ホンドテン) ホンドテンモニタリング調査
2015	10	3	8	3	2	1		0	14	地協会	1. いきもの村環境整備 ①里山環境整備 ②歩道整備 ③水生生物の生息環境保全 2. 南ヶ谷湿地調査 3. ホンドテンモニタリング
2015	11	7	4	1	2	1		0	8	赤セ	1. いきもの村環境整備 ①里山環境整備 ②南ヶ谷湿地調査 ③赤谷の森まつり準備
2015	12	5	7	3	2	1		0	13	N-J	1. いきもの村環境整備 ①冬支度 ② 里山環境整備 2. ホンドテンモニタリング 3. ニホンジカ誘引試験の見学
2016	1										休止
2016	2										休止
2016	3	5	7	1	2	2			12	赤セ	1. 水生生物の生息環境保全 2. キツネ穴周辺の 動物生息調査準備 3. 里山環境整備 4. 薪の 整理 5. ホンドテン・モニタリング 6. 2015年度 活動報告
小計			74	18	24	14	0	11	141		

いきもの村の将来像に向けた様々な取組を進めました。



ミーティングの様子(5月)



里山環境整備の様子(12月)

2 赤谷の日について

赤谷の日とは

「赤谷の日」とは、原則毎月第1土曜日から翌日曜日の朝まで行っている赤谷プロジェクトの活動支援日です。多くの方たちに赤谷プロジェクトを知っていただくための入り口でもあります。サポーターと共に、そのご家族、ご友人もお誘い頂けます。

赤谷プロジェクトの活動拠点であるいきもの村に集まり、各WGが実施しているモニタリング活動や、いきもの村の環境整備等を実施しています。

「赤谷の日」の主催者等

「赤谷の日」は赤谷プロジェクトが主催します。当日の運営は、赤谷プロジェクト地域協議会、日本自然保護協会、赤谷森林ふれあい推進センターの3者が持ち回りで行います。各回の活動メニューについては前月の赤谷の日までに運営担当者からご案内します。

いきもの村の利用

いきもの村には、調査用具の保管やミーティングに使う「村の家」と、作業・活動の休憩場所である「たくみ小屋」があります。「赤谷の日」には、どちらも使う事ができます。「赤谷の日」終了後は、いきもの村内は、自由に散策できますが、建物内には入れなくなります（「チーム企画活動」での利用を除く）。

「赤谷の日」終了後について

「赤谷の日」は日曜日の朝7時に終了します。その後は自由行動となりますので「チーム企画活動」へのご参加や、個人やご家族の自主的な活動などにご利用下さい。また、日本自然保護協会等プロジェクト3セクターがプログラムを用意することがあります。

（「赤谷プロジェクト・サポーター要項」より抜粋）

2 平成27年度を振り返って（赤谷センター職員）

平成27年度は、会議やWG、調査活動のほか、赤谷プロジェクト10周年記念行事で課題として挙げられた持続的な地域づくりに向けて職員一丸となって積極的に取り組んだ1年でした。

赤谷センター所長 ^{ふじさわまさし} 藤澤 将志（～H28. 4. 1林野庁木材産業課へ異動）



上席自然再生指導官

今年度は、「森と笑顔はつながっているForest + Smile = For-e-Smile（フォレスマイル）」をキャッチフレーズに、「生物多様性の復元」と「持続的な地域づくり」を形にすることを目標に、みなかみ町、森の恵みと学びの家、みなかみ町観光協会、そして地域の皆さんなどと協働したイベントを企画・開催・参画するとともに、大学等への講義などを行いました。中でも、多くの方に参画いただき開催した「赤谷の森まつり」では、雨の中、100名を超える方が参加してくださり、ご来場いただいた方や関係者から、よいイベントだった、また参加したいといった声をいただきました。

今年の活動を振り返ると、「生物多様性の復元」と「持続的な地域づくり」とを同時に達成するために必要なことは何か、それは、お互いに資源を出し合い、共に考え、出番を見つけて自ら行動することなのだと思えます。そして、その先には、きっとみんなが笑顔で元気に暮らす「未来」があるのだと思います。

みなさま、来年度も引き続き、よろしくお願いいたします。

赤谷センター ^{ふじき ひさし} 藤木 久司（H26. 4. 1就任～）



自然再生指導官

2年目を迎え体制が変わり、主に担当する業務も変わって森林環境教育分野を強く勉強した年でした。藤澤所長考案の「フォレスマイル」や新たな取組の「もりのようちえん」「放課後こども教室」では更に関わる人が増え、「持続的な地域づくり」に向けて赤谷プロジェクトが地域に広がった1年だったと思います。また、日本全国で問題になっているニホンジカについて、「低密度管理」は赤谷プロジェクトならではの取組であり、色々な方と連携して具体的に実施していく準備をする貴重な1年でした。

これからも更に広がる赤谷プロジェクトとなるよう、自分なりのスタイルを見つけながら、関係する方々と精一杯やっていきたいと思えます。

赤谷センター ^{まつい たくろう} 松井 琢郎（H27. 4. 1就任～）



自然再生指導官

左も右も分からず、右往左往するばかりの1年でした。赤谷センターでは、今までの勤務では経験したことのない業務に携わることができ、自分自身にとって大いに勉強になりました。人工林の自然林への復元試験、イヌワシ等の猛禽類のモニタリング調査など、林野庁の中でも赤谷センターでしか携わることができない業務に携われたのは、貴重な経験になりました。森林環境教育もそのノウハウを学べたのは、良い経験になりました。

今後は、「赤谷の森自然散策」で自然案内をできるようスキルアップするなど、赤谷プロジェクトの推進の一助になればと思っています。